

授業科目名	社会福祉学			担当教員	松倉 真理子
開講年次	2年後期	セメスター	4	時間数(単位数)	15 (1)
必修選択	必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	社会福祉の基本的枠組み及び基本的考え方について理解する。				
到達目標	ソーシャルワーク専門職は、看護職とさまざまな現場でチームとなり協働する。本授業では、学生が①現代社会において生じている生活問題や支援を必要とする人々（クライアント＝利用者や患者）について社会的文脈から把握し、②解決・支援するための社会福祉のしくみや専門職、ソーシャルワーク実践の基礎的な知識を習得することをとおして、③両職種の連携の意義を理解できることを目標とする。				
授業計画					
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者
1	(オリエンテーション) 社会福祉、ソーシャルワークの視点と概念 現代社会における生活問題を民主主義や人権の文脈でとらえ、歴史性、法的根拠をもって理解する。	講義	復習：社会福祉・社会保障、ソーシャルワークの視点とは何か考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉
2	社会福祉を必要とする人々と法律 社会福祉を必要とする人々（クライアント＝利用者や患者）や対象を定める法律について学びつつ、社会福祉の普遍性や共生社会のあり方について考える。	講義	予習：人の助けが必要になるきっかけや理由を考える。 復習：社会福祉の普遍性の意味を考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉
3	社会福祉の実践（ソーシャルワーク）をする人々とその職場 看護職と連携・協力することの多いソーシャルワークの専門職制度、実践現場について理解する。	講義	予習：看護職における資格制度について考える。 復習：看護職と社会福祉職の専門性の違いや接点を考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉
4	ソーシャルワーク実践の原理・原則 「ソーシャルワーカーの倫理綱領」「ソーシャルワークのグローバル定義」「バイスティックの原則」等を参考にしつつ、相談援助における共通基盤やワーカー・クライアント関係について事例を用いて考える。	講義	予習：看護職の原理・原則とは何か考える。 復習：看護におけるバイスティックの原則の活用について考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉
5	ソーシャルワーク実践の専門職性とは何か（1） 「自己決定」を支援することの意味について、具体的事例を用いて考察する。	講義	予習：事例文を読み込み、自分なりの対応を考える。 復習：「自己決定」を支援することの意味について考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉
6	ソーシャルワーク実践の専門職性とは何か（2） 「秘密保持」の意味について、具体的事例を用いて考察する。	講義	予習：事例文を読み込み、自分なりの対応を考える。 復習：「秘密保持」の意味について考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉

7	ソーシャルワーク実践の専門職性とは何か (3) 相談援助における人間観やワーカー・クライアント間の信頼関係構築の必要性について理解する。	講義	予習：事例文を読み込み、自分なりの対応を考える。 復習：クライアントとの信頼関係を築くためには何が必要かをソーシャルワークの立場から考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉
8	まとめ これまでの授業の振り返るとともに、看護職と社会福祉職のチーム連携の意義について理解する。期末(試験ガイダンス)	講義	予習：これまでの資料を見直し、疑問点を整理する。 復習：クライアント本位のソーシャルワーク実践とは何かを考察するアサインメントに取り組む。	90分	松倉
先行履修科目					
テキスト	特に指定しない				
参考文献	岡本民夫・平塚良子・小山隆・加藤博史編：ソーシャルワークの理論と実践―その循環的発展を目指して―。中央法規出版，2016。 空閑浩人編：ソーシャルワーク入門―相談援助の基盤と専門職―。ミネルヴァ書房，2009。				
科目の位置づけ	社会福祉の基礎的知識を培い、後の保健福祉看護実習Ⅰ及びその他の科目と連携する。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
	◎		○		
評価方法	授業への取り組みや授業毎のアサインメント(30%)、期末試験(70%)等を総合し評価する。				